

松陰習談

完



牛南先生著

寬政  
己未  
新刻

松蔭醫談

完

江都書肆

蔓延堂

牛南先生松蔭醫談序



門人 長岡厚宗宅撰

松蔭醫談一篇先生所嘗筆而藏焉蓋有感時流而作也今茲七月余得之二翠軒書齋也得而讀之而熟之而味焉則猶百末酒橫紋茶之飲之啜胃府應別覺有一段飢意不可已者也乃將上之梨東之及以當同口者之玉羹綺饌焉嗚呼余從



亂始有識而後事於斯也于茲十有三年下  
矣雖未至波伯玉氏五十知四十九年之  
非然讀斯書而後有解多年之惑於乃今  
之日之可甚喜者則使年之長於我惑之  
久於我者有解若干年之惑於讀斯書之  
日之可甚喜者予不啻為起癘濟痼之桂  
董寔彼輩之良鹽奇梅也如之何其徒供  
脉望子之餌食哉因請之先生先生笑曰

一器之味未足盡字昂滋且齊人之所好  
又楚人之所惡也蓋思為余起拜曰固也  
是所以易牙之於味尚且不能一乎毛鱗  
蔬菜油膩菲薄之所熟之口以適字人之  
嗜好之說也然易牙之所志豈使人必  
同適其口味之求乎唯在後其物之各所  
宜而五味能調為使人知味之所以為  
味而已矣斯書之行也或好為或惡為或



可馬成否馬亦唯在字讀者而不在于先  
生也豈可得一舉三反自我之期哉卒附  
割劂云時寬政改元己酉之秋



寬政十年戊午夏 徠山源璫書



松の針醫談

雨森宗真著

人を活物たるを療治を活技を云ふ。そのまじり  
邪氣を去るを去れ。そのまじりたるを去れ。なすまじ  
り病何と云ふ方何と云ふ経穴をん侍も。  
かまると云ふ。まじり名也。これ療治乃手  
のつらむ。人のうらふ。大うらむ。つらむ。  
つらむ。人のうらむ。後の世も書



此の實を療治す。世に中風らしき病を以て中風なりと云ふ。傷寒の方を傷寒と云ふ。灸穴を以て灸の身を以て灸の。古入乃書を以て古の。執拘を以て執拘の。活技乃

妙處を以て妙處の。大なる傷寒を以て大なる。寒を以て寒の。妙薬を以て妙薬の。

此の實を療治す。世に中風らしき病を以て中風なりと云ふ。傷寒の方を傷寒と云ふ。灸穴を以て灸の身を以て灸の。古入乃書を以て古の。執拘を以て執拘の。活技乃























こやも多のあまり。いふ。浮屠巫覡乃。  
靈符なる。秘符也。相伝へて。たうとむもの。  
か。これや。いふ。いふ。符なる。侍ふ。  
や。これら。いふ。いふ。は。ち。乃。符。水。  
な。乃。いふ。蘇。枋。の。煎。汁。いふ。  
ふ。生。もの。呪。字。なる。硯。乃。中。亦。海。藻。を。  
結。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
海。乃。た。れ。や。世。の。志。為。人。を。いふ。いふ。いふ。  
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

布。律。ふ。いふ。いふ。藥。を。あ。いふ。鍼。を。いふ。  
本。方。此。こ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
一。給。え。いふ。いふ。の。藥。を。いふ。いふ。いふ。いふ。  
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
いふ。給。ふ。いふ。いふ。侍。ふ。周。禮。を。いふ。書。は。年。  
此。醫。功。を。いふ。いふ。給。ふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
人。に。給。ふ。いふ。いふ。用。を。給。ふ。いふ。いふ。いふ。  
醫。乃。いふ。いふ。活。理。を。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。











つらあまの... 初  
心乃人ふらあ...  
よらた。

妊婦あふ家ふら... 醫家より。はやめん  
いあもの... 産ふの... 時。  
穩婆お... 用...  
穩婆の... 程の時。  
よそ... 穩婆の... 其藥乃。  
藥々... 乃... 其藥乃。  
や... 乃... 其藥乃。

乃人の... 産... 病...  
... 難産... 他病...  
... 藥...  
... 胎衣...  
... 血...  
... 程用心...



自然のこころを  
得るに  
中醫を  
得るに  
初生乃兒  
六時十二時廿四時  
三十六時  
諸説乃  
飽ハ寝  
啼乃  
時  
齒  
飯

時節を  
規矩を示  
古人  
乃説  
初生  
乃  
名  
思



























知よ侍の... 矢つと早よ... 二息三息... の  
間一矢... 射ら... 射藝乃師... 山城乃釘銀  
治ふ文盲劉毅乃男... 成時... 蓮華王院  
... 矢... 見侍... 思ふや  
われ等... 賤... 身... 此矢數... 釘  
釘... 夜半... 壹萬五千乃數  
歸...

釘... 一息... 乃釘  
手... 學... 書學... 名...  
窮樂... 人...  
也... 釋乃智覺源空等の日... 十萬遍  
念佛... 修...  
... 書  
... 書



熟く書籍をよむ人の史傳乃あはれむ  
しれは上池水麻沸散をもまじへて心  
くま扁鵲華佗乃ともか  
おふは侍らるる  
らおは侍らるる  
の聖醫神醫と称せらるる人ともか  
ふその  
阿は侍らるる

酌  
なま仲景は大小兼氣乃斟酌  
はま見申るるに古人を  
乃ほま道理は有無を  
に  
みまのま治方  
まの甲乙はあはれ  
まのま  
醫乃











周よりゆきしる。老人耳目痺れ。趙よりゆきしる。婦人  
秦より往きしる。小兒醫者。今に醫者の利。史官に。小兒  
醫者。今に醫者の利。史官に。小兒  
扁鵲よりゆきしる。書に。大人と。小兒  
なり。治療の功者。史官に。小兒  
古よりゆきしる。療治の功者  
なり。人よりゆきしる。高下  
なり。史官に。小兒

いふ家よ。あらし。日用食物を  
多し。時珍の本草を。人より  
けし。毒を。見侍。毒に  
おし。毒を。見侍。毒に  
人より。文字を。全文と  
いふ。諸家乃全文と  
いふ。諸家乃全文と  
いふ。諸家乃全文と















多しゆあふし。

顯家中納言年老るのち。疝を患ふ。其の病を治すに。多しゆあふし。

萬病乃らる。これの。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

と。い。療治を。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

翻胃といふ。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

書。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

醫書のみ多く。療治。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

病人。人情世態。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。

多しゆあふし。病者を。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 多しゆあふし。病者を。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 罪を。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 多しゆあふし。病者を。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 問。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 療治より。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 一。回執のはり。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。  
 醫國。多しゆあふし。其の病を治すに。多しゆあふし。



わけき... 醫... 文字... 古人...  
上手の... 未病を治...  
おほ... 治...  
... 万葉集...  
... 言傳...  
... 嵐...

... 侍... 説文... 符合...  
... 山嵐瘴氣... 時...  
... 丸薬五粒...  
... 其強解...  
... 壯人... 辭...  
... 鍼... 分...  
... 丸薬五粒...  
... 推了...







あはれなるし... 臣子... 人...  
あはれなるし... 臣子... 人...  
あはれなるし... 臣子... 人...

か... 上手... 利口... 心得...  
か... 上手... 利口... 心得...  
か... 上手... 利口... 心得...

あはれなるし... 我身... 人...  
あはれなるし... 我身... 人...  
あはれなるし... 我身... 人...  
元政... 神農... 深草...  
元政... 神農... 深草...  
元政... 神農... 深草...



梅市子  
たふ竹の  
ぬくもて  
多つた  
神代書  
今も  
里に  
のり

侍... 齒...  
その... 多...  
書...  
予... 人... 書... 乳... 冷物...  
小児の油瀉... 治... 乳の冷物...  
糜粥... 薬...

醫書... 乳... 自然... 小児... 純陽... 熱...  
朝... 大人... 乃... 二日... 咳...



古くは、醫教は儒者乃、鉛槧に鉛槧ふ、  
の父首から、物祖徠乃、素問を評  
侍、其脈如弦、平人四時乃脈の、  
弦乃、病脈、四花の、

婦人、  
井澤長秀、  
醫者、  
東五郎、



















乃も房心尾の三座なり。南方七宿のうらみなり。  
朱雀の象なり。此れも...このは、柳星張乃三座なり。  
西方白虎の象なり。このは、觜と参とを二座なり。七宿  
北方玄武の象なり。このは、虚と危とを二座なり。七宿  
七座なり。象なり。象なり。象なり。象なり。象なり。象なり。  
誤なり。

霍亂の二字も、巢氏の病源候論の、揮霍乃  
問の變亂と、揮霍の間の変亂と、  
症、この病のふり限り論、定論と、又

揮霍掠亂と註し、この病のうらみ世乃説め、つは、  
俗のふり容體の名なり。病乃名なり。病乃名なり。  
多し。煩躁乃甚し。直らふ煩躁  
乃互辭なり。言の病のうらみ世乃説め、つは、  
病のうらみ世乃説め、つは、病の名なり。  
此病の容體なり。此註解を言出たれ。概  
めし。又漢書、夏月嘔泄霍亂と、  
此諸書も、中暑の属なり。必し暑月の病  
なり。四時なり。誤なり。



傷寒論の本篇より吐瀉あり病乃名として見  
義浄の南海寄歸傳より食傷乃様より見ゆる  
これ以上乃數説を合せて中暑と吐瀉と煩躁と  
か病の病の名を霍亂と名づけ  
兵亂の軍士乃多く此病を霍亂と名づけ  
し始めても新奇なる説は  
これれ治療乃益人は益人なり  
酒を飲むは病を治すなり

この書は古の書に多侍り又茶事なるは  
茶事なる人よむ思はるるを茶事なるは  
物語なるは茶事なるは茶會なるは  
物語なるは茶事なるは茶會なるは  
茶事乃家法なるは茶事なるは  
茶事なるは茶事なるは茶事なるは  
詩乃大雅に誰能執熱逆不以濯之



治方... 何やん... 乃... の  
人の火傷を呪ふ。何やん。乃... の  
かく... 極...  
...の人... 流...  
唯... 唯...  
早... 侍... 水... 流...  
...  
...の... 猫乃

... 麝香... 香...  
... 秘藏... 麝... 猫... 鹿  
乃... 宗... 鹿...  
江帥やんの説を侍れ。此の圖を香狸...  
... 麝香... かの國...  
... 香狸...  
... 製...  
... 麝香乃代薬



し。製し。治せ。乃

怪病を。痰を。虫を。治せ

ん。小児の為。虫氣を

痰乃。痰を。火から

飲を。濕から。筋絡を。一紙乃

凡か。根の草を。端の

る。一。根の草を。端の

る。一。根の草を。端の

腸胃五臓の

無数の脈絡。縦横。一。軀。設。全體。筋を

の。微細。蜘蛛の

猶細く。絲。糸。系。より。猶。連。属。

一。腑。一。膜。乃。間

理。筋。骨。皮。肉。の。を。維

持。一。五。臟。腸。胃。の。串。通。互。に。保。護。養。榮。

ふ。玄。妙。之。知。奇。異。混。雜。の。病。源。



腸胃... 釣... 下垂... 養生家  
丹田を煉... 侍... 常...  
氣息... 雄暢... 氣血乃流行...  
虚里乃動... 何由... 左... 乃書...  
大... 阿

蘭陀人の説... 等の事...  
人の身... 右の手... 腰の骨...  
僧の... 阿蘭陀...  
人... 乃... 乃



















ついでに... 傳... 矢法... 法子... 傳... 同身寸... 今... 矢... 十束... 傳...

後の代乃耳... 聞え侍ふ

等分... 能... 類中風... 侍...















かゝ療治の...  
おそそれ...  
外科...  
死...  
侍...  
酒...  
熱湯...

...  
血...  
人參...  
元氣...  
偏鶴...  
死...  
侍...  
耳鳴...  
年...  
太子...  
生...



道理。予の兄。笹島道忠。乃。予の叔父の家。侍。あ。

笹島。予の實家。氏。越前大野郡。養。雨森氏を襲。實家は。代。道忠。今。道忠。東廬。予の伯父。東廬の父。伯教。父。圓休。父。慶西。父。宗意。乃。今。大。路。道。三。立。淵。先生。乃。門。下。り。

あ。道。み。字。を。襲。道。忠。と。稱。せ。伯。教。東。廬。伯。教。の。項。遠。州。雙。川。の。後。山。の。葬。侍。伯。教。の。醫。通。治。術。多。く。發。明。乃。説。年。大。野。祝。融。乃。災。諸。稿。鳥。有。一。語。の。耳。侍。り。の。書。の。卷。の。



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period.



寛政十一年十二月

書林

東都下谷御成小路

足利屋勘六發行



Handwritten cursive text on the right page, consisting of several lines of characters.

Handwritten characters, possibly a signature or date, located below the main text on the right page.





